

# 見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

January 2021 vol.81

January						
S	M	T	W	T	F	S
						1 2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

## ◆入鹿切れの慰霊碑

所在地：犬山市羽黒小安（立円寺） ほか  
交通：名鉄小牧線「羽黒」駅 東約 300m

農業用ため池は、農業用水の確保のために造られた人工の池で、江戸時代以前に造られたものも全国に数多く存在しています。東日本大震災では、福島県須賀川市で農業用ため池の藤沼湖が決壊し、7名の死者が発生しました。

この災害を契機に、国は決壊した場合に人的被害が発生するおそれのあるため池を、「防災重点ため池」として、その選定基準を作成し、全国の自治体で、ため池が決壊した場合の想定浸水図の作成や、ハザードマップでの情報提供、ため池の補強が進められています。

犬山市の入鹿池は防災重点ため池のひとつです。入鹿池は、寛永 10（1633）年に完成した農業用のため池で、貯水量は 15,190 ㎥、犬山市、小牧市、扶桑町、大口町の約 600ha の農地に用水を提供しています。慶応 4（1868）年には「入鹿切れ」と呼ばれる大規模な堤の決壊が発生し、丹羽郡、春日井郡、中島郡、海東郡の 120 か村で被害が発生し、900 人余りの方が命を落としています。

現在の入鹿池は、耐震診断により、南海トラフ地震等の大規模地震に対し耐震性を有していることが明らかとなっており、また、200 年に一度程度の大規模な降雨に対応した洪水放流施設を備えています。2020 年 5 月、愛知県により、入鹿池が万が一決壊し、池の水がすべて下流に流出した場合に想定される浸水状況を示した浸水想定区域図が公表されました。（<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/nochi-keikaku/irukaike-shinsuisoutei.html>、裏面も参照）

浸水想定区域図によれば、入鹿池が決壊した場合には、池の南西側から流出した水が北西方向に流れ、30 分で犬山市内の住宅のある地域が浸水し、その後さらに南西方向に流れ、大口町、岩倉市、北名古屋市の中心部に到達するとされています。池に近い場所では実に 5m 以上の浸水深さとなり、江南市、大口町、小牧市、岩倉市、扶桑町、北名古屋市でも 1m を超える浸水深となる場所があります。最終的な浸水想定区域は、一宮市も含めた 8 市町となり、浸水面積は約 100 ㎥に及ぶとされています。

「入鹿切れ」にまつわる碑や史跡は、この地域に数多く残されています。犬山市羽黒朝日地区には、入鹿切れの洪水後に溺死者の亡骸が集められ埋葬されていた場所があり、明治 33（1900）年 5 月に当地を訪れた和尚により、散在していた人骨が集められ、「入鹿洪水溺死群霊塔」が建立されています。すぐ西の立円寺には、入鹿切れの流水により溺死した人々の記録が残されており、境内の慰霊碑には、男性 44 名、女性 74 名、性別不明者 31 名の合計 149 名が命を落としたことが記されています。また、立円寺の西方、2018.8 月号で紹介した興禅寺には、入鹿切れの際に付近まで流されてきたと伝えられる「入鹿切れ流石」、入鹿切れの犠牲者を供養する「北向き地藏」が安置されています。

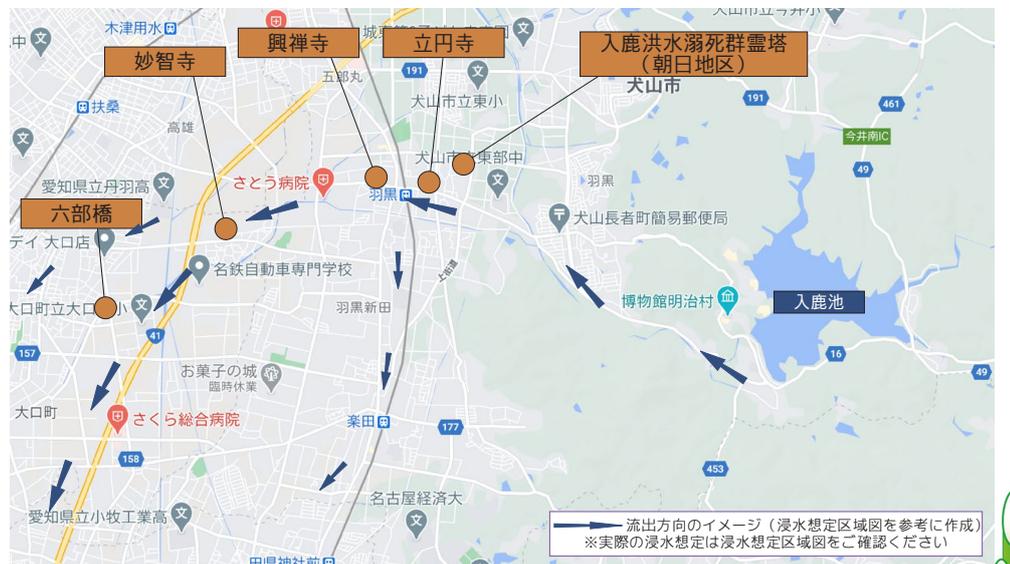
続いて大口町に入ると、河北の妙智寺には、当時の大地主・仙田半耕が入鹿切れの惨状を偲んで明治 31（1898）年に建立した、「入鹿



入鹿洪水溺死群霊塔（朝日地区）



立円寺の慰霊碑



◆災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

「暴水溺死各亡霊の碑」が安置されています。さらに、五条川に沿って西に進み国道41号を過ぎると、県道158号小口名古屋線の六部橋畔に、「暴水流亡各霊墓」があります。暴水流亡各霊墓の台石には、入鹿切れにより被害を受けた羽黒、楽田、橋爪、五郎丸、下野、余野、小口、河北、外坪、伝右工門新田、宗雲新田などの村名が刻まれており、被害が広い地域に及んでいたことがわかります。

さて、これらの碑や史跡のある場所を地図に示すと、入鹿切れの際の実際の浸水範囲とよく対応します。また、愛知県が公表した浸水想定区域図と比較してみると、浸水想定区域の中でも、水深が2mから3mに達するとされている地域に存在していることがわかります。

浸水想定区域図には、ある想定の下で起こりうる浸水の状況が図示されていますが、碑や史跡からは、その場所で実際に災害が起こった事実を補強することができます。ハザードマップの情報に、地域の碑や史跡の情報を重ね合わせて、災害に対するイメージを具体化し、日々の備えにつなげていただければ幸いです。



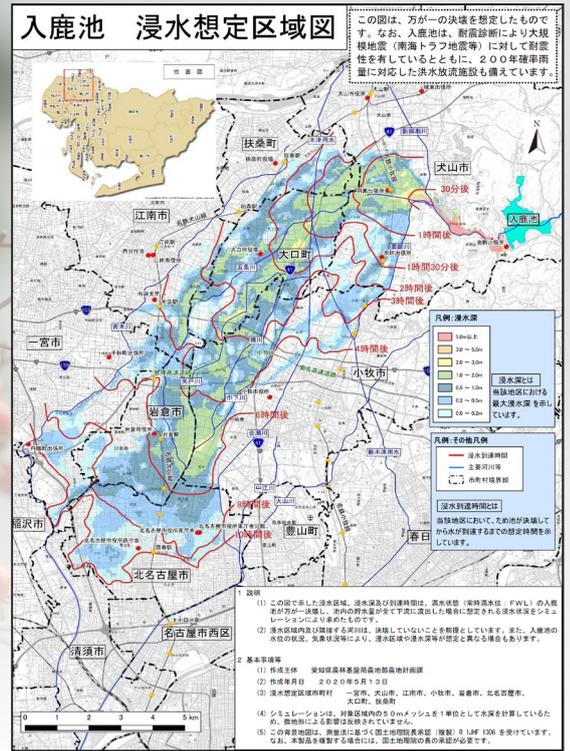
入鹿切れ流石 (興禅寺)



入鹿暴水溺死各亡霊の碑 (妙智寺)



暴水流亡各霊墓 (六部橋畔)



入鹿池 浸水想定区域図 (愛知県 HP より)  
※ 実際の浸水想定区域図は HP をご参照ください

## ★ 犬山城下町どぶろく祭り

犬山城下町どぶろく祭りは、2011年の東日本大震災の後、東北ががんばれ！をテーマに、東北地方の人気のどぶろくを取り寄せ、12月に第1回が開催されたのが始まりで、現在は毎年1月中旬に開催されています。期間中は、三光稲荷神社境内の露店と、犬山城下町本町通かいわいの参加店で、1杯350円で人気のどぶろくが飲めます。(2021年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)



犬山まちづくり(株)HPより

犬山城下町では1月のどぶろく祭りのほか、3月にはあったか鍋と地酒まつり、4月と10月にはワインまつり、5月には焼酎まつり、7月には泡盛まつり、8月にはビールまつりと、お酒をテーマにした催しが定期的に行われています。

## あいちの農産物

あいちの伝統野菜・守口大根は、大阪の守口地区が起源とされ、現在は愛知県扶桑町と岐阜県各務原市の木曾川流域が主な産地です。



JA愛知北HPより

直径は2センチ前後ですが、根の伸長が旺盛で、長さは1mを超え、1m80cmに達するものもあります。地中に深く育成するため、水はけが良く適度に砂の混じった柔らかい土質の畑で栽培されます。

肉質は緻密でしまっており、粕漬けにすると歯切れがよく、漬物用として利用されます。

## ●ブレイクタイム●

### ♪ 博物館明治村

明治村は、高度経済成長の影で消えゆく貴重な建造物を保存するため、昭和40年に開村した野外博物館です。フランク・ロイド・ライト設計の旧帝国ホテル中央玄関を筆頭に、明治時代や大正時代の貴重な建物が建ち並ぶ村内は、テレビや映画のロケ地としても人気があります。また、日本初のカクテル「デンキブラン」や文明開化の象徴「牛鍋」、日本のグルメ小説の先駆け、村井弦斎の「食道楽」に描かれたコロッケを再現した料理など、「明治のグルメ」も楽しむことができます。



Aichi Now HPより

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、[gensaisan2014@gmail.com](mailto:gensaisan2014@gmail.com) まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ防災減災サイト』(<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>) をぜひご覧ください。

(発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2021年1月)

